

頭等を加へ、又はその器量を試むる間假に任ずる者をいふ。十村限りで任命する。一に當分肝煎といふこともある。

(七)加役肝煎一村に事故があつて調査を要するとき、十村はその組内で年功ある肝煎を臨時に使用することがある。之を加役肝煎又は加役人というた。

**ムラゴイン** 村御印 藩政の時、各村の草高・免合及び小物成の種類を定め、藩侯の捺印を加へてその村に與へる書面をいうた。慶安元年前田利常が領内の惣檢地を命じ、三年初めて村御印を下附したに起る。次いで利常は改作法を施行し、更めて明曆二年八月朔日附の村御印を與へ、寛文十年七月口米の量を改定して、また同年九月七日附の村御印と交換した。加賀藩中でも、長氏の舊領であつた鹿島半郡には、延寶七年三月十三日附でそれを與へ、初め幕府領であつた羽咋郡千路等八ヶ村には寛政十二年六月十日附で交附してゐる。

**ムラサネハル** 村實玄 又安元に作る。通稱金左衛門。父兵助の祿五百石を襲ぎ、中小將裁許・御歩頭に任じ、元祿四年歿。その孫四郎五郎一之に至つて家斷絶した。

**ムラサハクニヒサ** 村澤國久 國村與右衛門國廣の子與右衛門國久は、姓を村澤と改め、鏡象眼師として加賀藩の御細工者になつた。その子に與平次國定があり、又その子銀次郎又は彌左衛門國和も御細工者に列して藩末に至つた。

**ムラサハクニヨシ** 村澤國吉 村澤國吉は村澤與右衛門國久の門人であつた。國吉鏡象眼の技に精しく、加賀藩の御細工者となつて

歳俸三十俵を受け、二代庄九郎氏安も亦御細工者であり、三代和三郎國次の時王政維新に際してその職を廢した。

**ムラスミキヨ** 村純清 字は文澄。語々齋。青溪と號した。寶曆十三年奇事談一卷の著がある。

**ムラセカツタ** 村瀬克忠 通稱久太夫、字は想夫、致齋と號した。貞享三年加賀に生まれ、若年江戸に往き、勇氏によつて長崎奉行大岡備前守に仕へ、六年にしてまた江戸に還つたが、幾くもなく備前守が卒した。是より克忠仕進の志なく、四方に周遊し、終に慈母に侍する爲郷里に歸つて門下に教授し、明和二年十月廿八日八十歳を以て歿した。克忠記性あり、最も對談に妙を得たが、世益なきものは決して口にしなかつた。

**ムラセクエモン** 村瀬九右衛門 祿五百石。大坂再役に従軍し、一ノ丸口で首一つを獲たが、寛永六年その子四郎右衛門が、金澤の右衛門橋で、前田直之等と喧嘩して死んだ爲、現場に駆付いて亦斬殺せられた。

**ムラセヘイエモン** 村瀬平右衛門 初名服部出雲守。土佐守の子。慶長五年前田利長に仕へて千石を受け、姓名を村瀬平右衛門と改めた。この平右衛門から五代平右衛門の時、享保十年子なくして家斷絶した。

**ムラセマツグ** 村瀬又次 克忠の子。通稱仙右衛門。字は子固。童蒙の爲に句讀を授けたが、晩年仕へて國卿前田孝昌の文學となつた。

**ムラタキエモン** 村田喜右衛門 初めて前田利常に仕へて三百石を領し、子孫藩に世襲する。

**ムラタゲンエモン** 村田源右衛門 大聖寺藩士。八右衛門の弟で、承應中新に召出され祿七十石を受けた。その天性俊敏であつたことは、祕要雜集に書かれて、狐を突くことを工夫し、縁側に來た雀を障子を明けて手捕にしたこともあるといふ。源右衛門はまた坂綱の法に因る鴨獵の創始者であると世に傳へられるが、それは創始者ではなく、單に坂綱を能く使用したといふことだらう。

**ムラタゴウトウ** 村田五香湯 ↓ゲョウトウ 五香湯。

**ムラタジサエモン** 村田治左衛門 初めて前田利常に仕へて二百石を領した。子孫藩に世襲する。

**ムラタシヘエ** 村田四兵衛 父は浦上九郎左衛門。宇喜多秀家の敗戦後、慶長五年前田利長に臣事し、祿千五百石を受け、御馬廻頭に任ぜられた。寛永六年正月三日歿。子孫藩に世襲する。

**ムラタスイジヨウ** 村田翠丈 金澤の俳人。通稱良助又は鐵平。諱は千里、字は萬里。大坂屋眉山の門に學び、翠丈・芝園・寒餘と號し、後に眉山の名を襲ぎ、翠臺を襲席した。傍ら丹青を好み、北宗の技を能くした。

**ムラタナリミチ** 村田成路 通稱長太郎・半助。天保四年七月父九郎右衛門長基の遺知五百石を領し、御馬廻組に班し、御郡奉行・改作方當分加・前田慶寧御抱守に歴任し、後大將組に轉じて表御納戸奉行等となり、藤鷹又は不老庵不死丸と號し、狂歌を善くした。

**ムラタハチエモン** 村田八右衛門 大聖寺藩士。正保中召出されて祿二百石を受け、原田流の槍術を能くして之を教授した。

**ムラツケチヨウ** 村附帳 ↓サンシユウムラツケチヨウ 三州村附帳。

**ムラドウエツ** 村道悅 一慶の弟彌助の子。元和六年前田利常に仕へて合力米若干を受け、寛永十年歿。子孫藩に世襲する。

**ムラトウキヨク** 村東旭 通稱金作、諱は晴俊。素水山人・東旭又は影順軒と號し、畫を岸駒の門に學んだ。加賀藩の御細工者並となり、嘉永四年正月五日歿。

**ムラトニユウ** 村斗入 加賀の俳人。一里庵と號し、天明五年その著東山春色には斗入坊元室と記される。生涯行脚を事とし、晩年名古屋に止つたが、文化二年八月信州別所温泉に遊び、乙堂の許にて歿。

**ムラノブヤス** 村陳教 通稱長次郎・重藏。木工右衛門。寶曆十三年父才記堅修の遺知五百石を受け、大小將・金谷表小將・御表小將・御表小將横目より、次第に昇進して定番頭に至り、天保元年百五十石を加へ、三年致仕して料二百石を受けた。

**ムラバイガク** 村椽岳 父は東旭。字は子穆、名は徹。父について畫を學んだ。天保頃の人。

**ムラヒガシカタ** 村東方 康正二年造内裏段錢並國役引付に『二貫八百五十文、相河彌三郎加賀國村東方并松任成丸之段錢』とある。加賀志徴に、村東方は相河村の東方で、今の東相河であらう。東寺文書至徳二年四月廿七日附左衛門佐判書に『加賀國相河村西方相河加賀守跡云々。』ともあると記する。

**ムラマツ** 村松 能美郡栗津郷に屬する松崎の一部であつたが、大聖寺藩では一村として取扱うて居た。明治以降亦獨立部落とする。